

不傷悲。就中恩愛甚深之慮從者。昔晒作備者。即日有致死人。隔日有成。程嬰杵臼思人。又有俄覺族。寔陪臣侍士之傷。理之所盡情之所窮也。于然野僧宗切。畿内攝州之產。東瀛西泊之後。投老於加州城下。而過一生於鉢孟中之所。去承應甲午秋七月。不意呼令登城。彼隱君告曰。當城良岳有故刹。名曰傳燈。雖然屋廬湫隘。柱石傾斜。只存故基已。而若作和上終焉地者。即可作新。余天心之餘咽于老淚。不獲答而首肯焉。同八月上旬。課匠作寮。打鼓普請。盡善盡美。翌年三月落成矣。不移時日入寺。自爾以降。酬恩謝德之日未幾年。隱君頓逝。計音落耳。切比丘亦落魄斷魂。濕却袈裟角者也。時移事去。老淚之隙。綴不才。安牌中七箇字於句上。置姓諱官名於句尾。而追悼七絕。不憚高見遠識人。不願柔筆。記以奉皇牌前。若定中有昭覽者。切比丘惟幸。

一生受用恣歡悅 可惜不連橫合縱
子葉孫枝長蓋代 仰高千歲大山松
峯尖岳嶮衆山勢 國泰民安太守情
多少錦鯨捲還客 長季想像意和平
大命俄移似背公 永陪幕下合存忠

嚙牙辛苦守其國 政在充過不及中
居仁處義與心合 武勇問兮文道答
月俸家資三國財 悖无出矣悖無納
士重死兮臣重恩 左之双腹右之髡
黃門深鎖瀘山裡 掩室杜詞終不言
神功雖缺從三位 退筆力量猶不異
想是此公丈夫人 郊居深被謝名利
儀規德行至公道 煩惱菩提成佛場
痛捨身心休慟哭 出生入死不違常
萬治元年戊戌仲冬

三住妙心現傳燈千岳宗切蒲拜
前黃門乾公大居士捐館舍之日。金龜既移野外。有令不能相從。賦拙傷一篇。以述卑懷云。

一道恩光三十年 袈裟濕却夕陽邊
北邱咫尺不能到 空灑黃雲向佛前
按するに、千岳和尚は攝津國の出生にて、東西諸州をば遍歴して、金澤の府下に來り、爰に滯足せし事、彼の微妙公の牌前へ獻備せし追善の文にて知られけり。微妙公の恩養

を蒙れる事ゆゑ、哀悼の深き、實にさもあるべし。

○本陸山承證寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基信行院日種と云僧に而、天正元年服部五右衛門与申仁建立仕。とあり。寛延二年の由來書には、天正十七年に建立仕、寺屋敷は高德公御代服部佐渡菩提所なるに付、則佐渡より被申上。尾張町に而拜領仕處、其後御用地に被召上、爲其替地古寺町に屋敷拜領仕處、水損之地に付、御訴訟申上、爲其替地泉野今之屋敷拜領被仰付。とあり。按するに、天正元年に服部五右衛門と云ふ人創立すとあるは、何れの地にての事歟。若しくは越前府中ならんか。服部佐渡は寛永十三年十月二日卒、法名承在院日久居士と過去帳にあり。五右衛門は佐渡の父ならんか。子孫なき故詳かならず。

○鬼子母神堂

承證寺にありて、信者之を尊敬す。此の鬼子母神は鬼面を祭れり。此の鬼面は、舊傳に、昔加州能美郡安宅浦の海中より上りたりと云ひ傳へたり。但し其の年曆時代等の事は傳承なく詳かならずといへども、甚だ古作にて靈異あらたな

りとて、従前衆人甚だ崇敬して繁昌すといへり。

○稻荷山眞長寺

眞言宗也。俗に稻荷眞長寺と呼べり。貞享二年の由來書に云ふ。當時開祖元養、慶長十二年從關東當地金澤へ來り、中村刑部取次を以て、犀川河原町近邊に而寺屋敷拜領仕、同十五年寺造立仕處、元和八年稻荷社御造營、神前祈禱被仰付、御札等獻上之仕。とあり。龜尾記に云ふ。稻荷眞長寺はもと關東より金澤へ來り、其の先より毎々祈禱命ぜられしゆゑ、中村刑部を以て利常卿へ願ひ、香林坊橋の下今の富永氏の邸地を拜領し、寺を造營せし處、寛永十六年泉野寺町今の地へ移轉すといへり。

○稻荷社跡

眞長寺の南側の地續きなる地也。従前此の社を眞長寺の稻荷と呼べり。抑此の稻荷明神は甚だ舊社にて、往古より金澤城内に鎮座ありて、其の社跡をば今に稻荷屋敷と呼べり。三州名跡誌に云ふ。眞長寺の稻荷明神は、金澤築城以前より林中に鎮座ありしが、御城普請方被命時分、假に稻荷橋の明地へ勸請せられ、其後眞言宗眞長寺境内へ御預け